

オーストラリア金融政策（2021年8月）

感染再拡大でも量的緩和の縮小方針を撤回せず

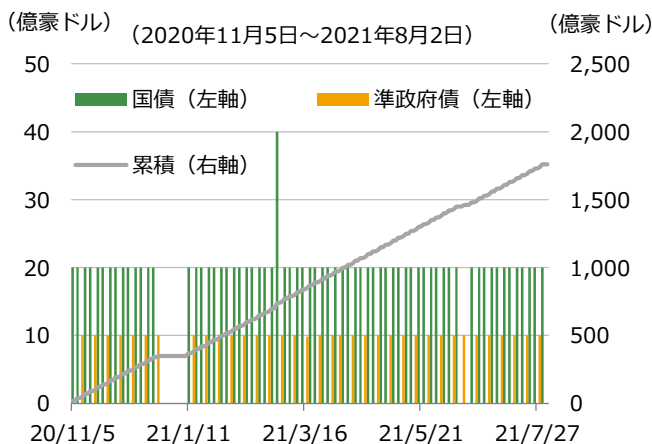
11月に量的緩和を一段と縮小できる環境が整うか

RBA（オーストラリア準備銀行）は8月3日（現地、以下同様）の理事会において、市場予想通り政策金利を0.10%で据え置く一方、市場予想に反して量的緩和の縮小方針を維持することを決定しました。

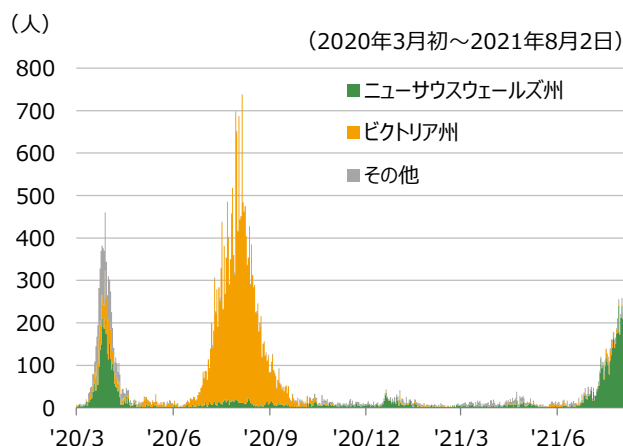
前回7月6日の理事会では、量的緩和における国債・準政府債の購入ペースを、これまでの週50億豪ドルから9月初旬に週40億豪ドルへ縮小し、少なくとも11年半ばまで続けることが決定されました。その後、新型コロナウイルスの感染再拡大とそれに伴うシドニーなどでのロックダウンを受け、市場参加者の間では、この量的緩和の縮小方針が撤回されるとの見方が大半を占めていました。しかし、RBAはそうした見方に反する決定を下したため、発表直後の金融市場は金利上昇・豪ドル高で反応しました。決定の背景には、①感染が再拡大するまでのオーストラリア経済はRBAの想定以上に力強く回復していたこと、②これまでの経験則に従うと、ひとたび感染を抑制できれば経済が直ぐに回復する期待が高いこと、③商品価格が高値圏で推移しているにもかかわらず、国債金利や豪ドルが年初来の最低水準で推移していること、などがあります。

今後、政府の計画通りにワクチンの接種ペースが加速し、またロックダウンが奏功して感染が早期に収束へ向かえば、11月2日の理事会において、11年半ばからの量的緩和の更なる縮小が決定される可能性が一段と高まると考えられます。

量的緩和で購入された国債・準政府債



新型コロナウイルスの新規感染者数



(出所) 大和アセットマネジメント提供データに基づきワイエムアセットマネジメント作成

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的としてワイエムアセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡す「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。